

やまなか かんぼく
山中 関卜 (1715~1769)

俳人。庄屋。宇摩郡入野村(現、四国中央市)出身。本名は与一右衛門貞興。山中錦鳥やまなかきんちょうの夫、時風の父。松木淡々の門の児島大圭、山口羅人に俳諧を学び、呉天奉納の『式百歌仙表合』をはじめ、種々の歌仙類にも加わった。淡々から俳諧の「秘記」など伝授され、古典にも親しみ、京都や大坂(現、大阪府)、伊予の俳人たちが、次々に関卜の家を訪ねては親交を結んだ。また、時風とともに芭蕉と淡々の塚を建立したり、入野を万葉集の歌枕として顕彰に努めたりするなど、入野の中心的俳人として淡々流を広めた。

略歴

正徳5(1715)年	宇摩郡入野村に生まれる。
元文3(1738)年	子の時風生まれる。
寛保3(1743)年5月	呉天願主『式百歌仙表合』奉納。関卜の句が収められる。
延享4(1747)年10月	村山一志編『素羅宴』(『伊予の高根』)刊行。関卜の句が収められる。
延享5(1748)年3月	独吟『一日百句十百韻』刊行。淡々の選評を受ける。
寛延3(1750)年	正木風状編『よよし簾』刊行。関卜の句が収められる。
寛延4(1751)年	合田由良雄編『百歌仙合』刊行。関卜の句が収められる。
宝暦3(1753)年	淡々80歳の賀に句を詠む。
宝暦11(1761)年11月2日	宇摩郡入野村の医王寺境内に淡々と芭蕉の句碑を建立。
明和6(1769)年9月19日	55歳で永眠。

〈関連図書〉

- ・星加宗一『入野の俳人 関卜とその子時風』 1960年
- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』 愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年

〈ゆかりのある場所〉…(P298, 137~138)

〈関連施設〉…暁雨館

〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町入野178番地1 TEL: 0896-28-6325